

農推第1470号
令和7年5月15日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予察注意報第1号

- 1 病虫害名 オオタバコガ
- 2 対象作物 なす科果菜類、うり科果菜類、あぶらな科野菜、花き類など
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠
 - (1) 今年度の5月上旬におけるオオタバコガのフェロモントラップ調査の誘殺頭数が、複数の地点で平年値を大きく上回った。(表、図)
 - (2) 大阪管区気象台の近畿地方3か月予報(4月22日発表)では、5～7月の気温は平年より高いと予想されている。

表 フェロモントラップ調査の各地点での
平年値との比較

	5月上旬 (頭数)	平年値 (頭数)	平年値との 比較
羽曳野市	76	12	約6倍
泉佐野市	47	13	約4倍

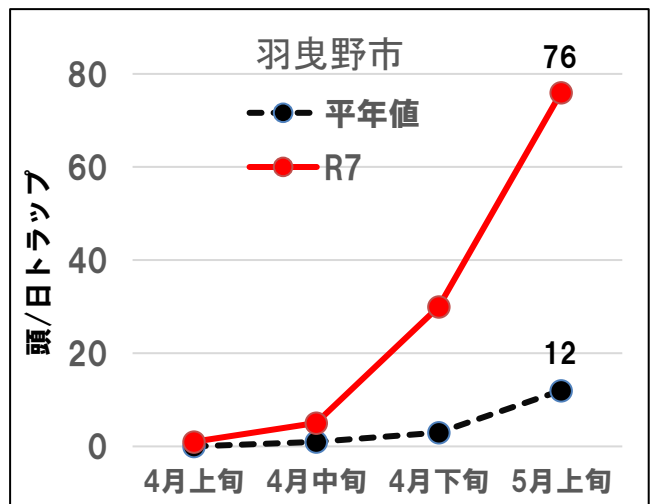


図 フェロモントラップ調査での誘殺頭数の推移
(羽曳野市)

- 6 生態と被害
 - (1) 卵の長さは0.4mm、色は淡黄色である(写真1)。新葉の先端や花蕾に1卵ずつ産みつけられ、ヨトウムシ類のように卵塊をつくらない。
 - (2) 幼虫は新芽やつぼみ、果実等に穴をあけて食入するのが特徴である(写真2、3)。老齢幼虫の体長は35～40mm、体色は淡緑色から茶褐色まで変異が大きい。幼虫は5～6齢を経て蛹となる。
 - (3) 成虫の体長は約15～20mm、開長約35～40mm、体色は灰黄褐色(写真4)である。1雌当たりの総産卵数は1000～2000個であり、年4～5回発生する。

- (4) 幼虫は広食性で、多くの野菜類、花き類等を加害する。大阪府内での作物への被害は、6～10月まで続く。特に8～9月の被害が最も多い。



写真1: オオタバコガの卵



写真2: オオタバコガの幼虫



写真3: オオタバコガによる食入痕



写真4: オオタバコガの成虫

写真2: 大阪府植物防疫協会 提供

写真4: (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 提供

7 防除対策

○施設への侵入防止

- (1) ハウス開口部に寒冷しゃや目合い5mm以下の防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。

○薬剤による防除

- (1) オオタバコガの幼虫が果実内部やつぼみに食入すると、薬剤が届きにくいいため、被害を確認したら直ちに防除する。さらに、老齢幼虫に対しても薬剤の効果が十分に得られないため、若齢幼虫のうちに防除を実施する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける（系統については別添防除薬剤例、病害虫防除指針などを参照）。なお、薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に十分注意する。

○その他の防除

- (1) 被害残さや摘除した茎葉・果実は、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外に持ち出し処分する。また、ほ場の見回りをこまめに行い、新しい食害痕やフンに注意し、その周辺を中心に幼虫を探し、捕殺に努める。
- (2) フェロモンディスペンサー（「コナガコン-プラス」など）の設置により、成虫の交尾を阻害し、産卵数を減少させることができる。（対象害虫の発生前からの設置が必要であり、周辺作物の種類やほ場の立地条件及び設置面積など、設置に当たっては十分な検討が必要である。）
- (3) 黄色蛍光灯を終夜点灯し、成虫の行動を抑制する。なお、作物によっては、開花抑制・開花遅延をおこす場合があるので注意が必要である。

<別添> オオタバコガの防除薬剤例

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
なす	アフーム乳剤	アベルメクチン(6)	2000 倍	収穫前日	2回以内
	プレバゾンフロアブル5	ジアミド(28)	2000 倍	収穫前日	2回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000 倍	収穫前日	4回以内

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
トマト	アフーム乳剤	アベルメクチン(6)	2000 倍	収穫前日	5回以内
ミニトマト	グレーシア乳剤	メタジアミド(30)	2000 倍	収穫前日	2回以内
	プレバゾンフロアブル5	ジアミド(28)	2000 倍	収穫前日	3回以内

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
野菜類	ゼンターリ顆粒水和剤 (除キャベツ、はくさい)	BT(11A)	1000 倍	発生初期 (収穫前日)	—
	デルフィン顆粒水和剤	BT(11A)	1000 倍	発生初期 (収穫前日)	—

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
きく	アフーム乳剤 (花き類・観葉植物)	アベルメクチン(6)	1000 倍	発生初期	5回以内
	ブロフレア SC	メタジアミド(30)	2000～ 4000 倍	発生初期	3回以内
	コテツフロアブル	ピロール(13)	2000 倍	発生初期	2回以内

作物	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
花き類・ 観葉植物	アフーム乳剤	アベルメクチン(6)	1000 倍	発生初期	5回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000 倍	発生初期	4回以内
	ディアナ SC (除りんどう)	スピノシン(5)	2500～ 5000 倍	発生初期	2回以内

- ・登録は令和7年5月14日現在
- ・最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。
(<https://pesticide.maff.go.jp/>)
- ・これら以外の剤については、Web版大阪府病害虫防除指針も参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html)